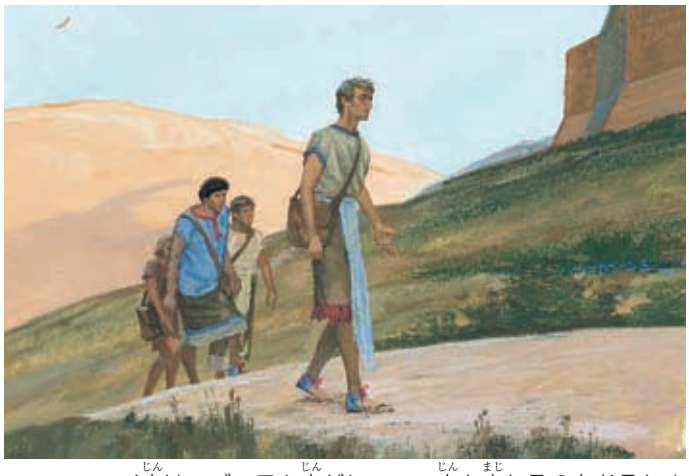
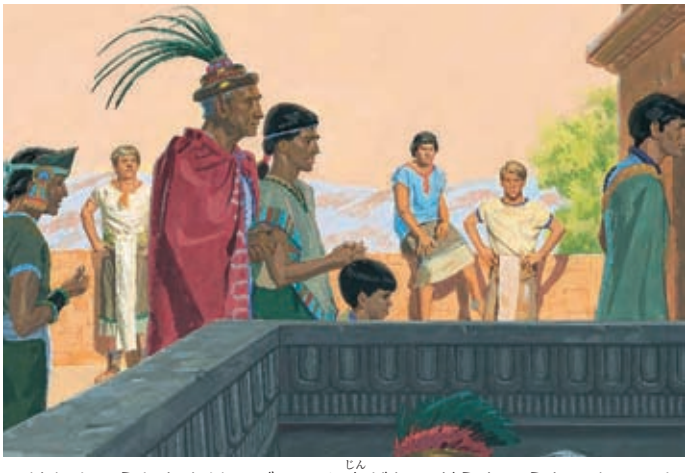
# ゾーラム人と ラミアンプトム

だい28しょう

ゾーラム人は，かつては神の教会のいちいんでしたが，じゃあくになり，ぐうぞうをおがんでいました。（アルマ31：1，8−9）



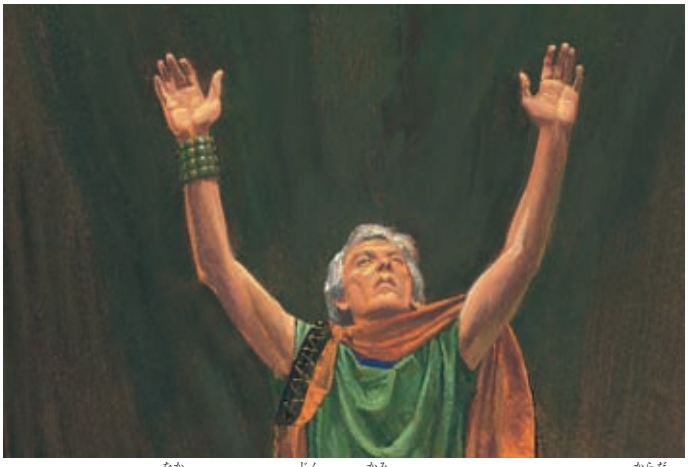
ニーファイ人は，ゾーラム人がレーマン人と交わるのをおそれました。そこでアルマは，せんきょうしをつれて，ゾーラム人に神のことばを教えに行きました。（アルマ31：4，11）



せんきょうしたちは，ゾーラム人がかいどうというたてものでしているれいはいのほうほうに，とてもおどろきました。（アルマ31：12）

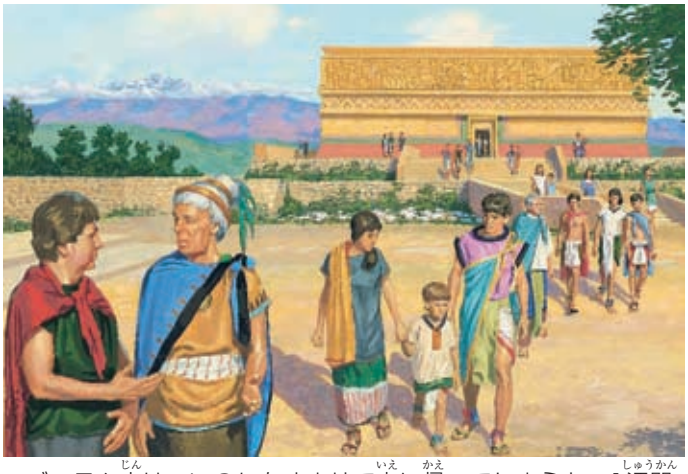
ゾーラム人は，かいどうのまん中に，ラミアンプトムという名前の高い台をたてていたのです。その台のてっぺんは，人が一人立てるだけの大きさでした。（アルマ31：13，21）

ゾーラム人は，じゅんばんにこの台の上に立ち，りょう手を天にのばして，大声で同じいのりをささげました。（アルマ31：14，20）



そのいのりの中でゾーラム人は，神はただのれいであって，体はない，キリストもいないと言いました。（アルマ31：15−16）

その上，自分たちだけは神からえらばれて，天の王国にすくわれるとしんじ，自分たちがとくべつなたみであることにかんしゃしていました。（アルマ31：17−18）



ゾーラム人は，いのりをすませて家に帰ってしまうと，1週間，神のことを話しもしなければ，おいのりもしませんでした。（アルマ31：12，23）

お金もちのゾーラム人たちは，金ぎんのことばかり考えていて，このよのとみをじまんしていました。そのようなありさまを見て，アルマはとてもかなしくなりました。（アルマ31：24−25）

アルマは，自分とせんきょうしたちに，力となぐさめとをあたえ，でんどうがせいこうするようにとおいのりしました。（アルマ31：26，32−33）

ゾーラム人をしんりの道につれもどすことができるようにねがいもとめると，アルマとせんきょうしたちはせいれいにみたされました。（アルマ31：34−36）

せんきょうしたちは，それぞれでんどうに出かけて行きました。神はかれらに，食べものやきるものをあたえ，でんどうする力をおあたえになりました。（アルマ31：37−38）

まずしいゾーラム人は，神をれいはいするためにかいどうへ入ることをゆるされていませんでした。この人たちは，せんきょうしの話を聞くようになりました。（アルマ32：2−3）

おおぜいの人びとがやって来て，どうしたらよいかと聞きました。そこでアルマは言いました。「かいどうの中でなくてもおいのりをし，神をれいはいすることはできます。」（アルマ32：5，10−11）

アルマは，神にしんこうをもつように教えました。その後アミュレクが，イエス・キリストと，すべての人のためにあたえられた神の計画について話しました。（アルマ32：17−21；34：8−9）

せんきょうしたちがさった後，せんきょうしの教えをしんじたゾーラム人たちは，町からおい出されてしまいました。かれらは，アンモンのたみといっしょにジェルションの地へうつりすみました。（アルマ35：1−2，6）

わるいゾーラム人たちは，ジェルションにすむアンモンのたみをおどしましたが，アンモンのたみは，正しいゾーラム人に食べものやきるものをあたえ，すむための土地をゆずりあたえました。（アルマ35：8−9）